

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成28年9月8日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 山形大学 学部・研究科の改組について
2. 山形大学発ベンチャー企業ナチュラルプロセスファクトリー株式会社が、県内企業株式会社タカハタ電子と新型常温乾燥機を共同開発
3. 常温乾燥工場、有機EL植物工場の山形大学発ベンチャー 設立へ
4. 山形大学の研究紹介～ツキノワグマに関する研究～
5. 「第3回東北野生動物管理研究交流会 in せんだい」を開催します
6. 第9回山形大学高校生朗読コンクール／群読劇の開催について

お知らせ

1. 平成29年度山形大学「推薦入試学生募集要項」及び「社会人入試学生募集要項」について
2. 第6回学長特別講演会シリーズ「山形から世界へ」を開催します
3. 「平成28年度奥の細道マイスター養成事業 特別講演」について
4. ひらめき☆ときめきサイエンス
『算数・数学マジックを楽しもう！～「なぜ？」&「なるほど！」の世界2016～』を開催します

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成28年9月20日(火)11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(9月8日)発表者

1. 山形大学 学部・研究科の改組について

学長

こやま きよひと
小山 清人

2. 山形大学発ベンチャー企業ナチュラルプロセスファクトリー株式会社が、県内企業株式会社タカハタ電子と新型常温乾燥機を共同開発

学術研究院 教授(機能高分子工学)

き ど じゅんじ
城戸 淳二

株式会社タカハタ電子 代表取締役

あ わ つよし
安房 毅

3. 常温乾燥工場、有機EL植物工場の山形大学発ベンチャー 設立へ

学術研究院 教授(機能高分子工学)

き ど じゅんじ
城戸 淳二

4. 山形大学の研究紹介 ～ ツキノワグマに関する研究 ～

学術研究院 教授(生態遺伝学)

た ま て ひでとし
玉手 英利

5. 「第3回東北野生動物管理研究交流会 in せんだい」を開催します

学術研究院 准教授(森林保全管理学)

え な り ひろと
江成 広斗

6. 第9回山形大学高校生朗読コンクール／群読劇の開催について

学術研究院 教授(地域教育文化学部担当)

ふ じ た ようじ
藤田 洋治

人文学部 1年

か た や ま りん か
片山 凜夏

地域教育文化学部 4年

いぬかい やまと
犬飼 和

平成28年9月8日
山形大学

山形大学学部・研究科の改組について

山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」という3つの使命を念頭に置き、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学を目指して、平成29年4月に5学部・2研究科で改組を行います。

本学は、平成29年4月に、5学部（人文学部・地域教育文化学部・理学部・工学部・農学部）及び2研究科（理工学研究科・医学系研究科）において改組を行います。

改組構想がまとまりましたので、今後速やかに学生募集を開始し、平成29年4月から学生を受け入れる予定です。

それぞれの改組の概要は、以下及び別添のとおりです。

●人文社会科学部の設置（人文学部の改組。1学科5コース。）

人文社会科学科 入学定員 290

[学位] 学士（文学）、学士（学術）、学士（法学）、学士（政策科学）、
学士（経済学）

[改組の趣旨]

グローバル化と情報化の進展、地域社会の衰退・空洞化と人口減少といった変動に対応するため、既存の2学科を1学科に統合してクロスディシプリナリーな教育を推進できる組織体制へ改革することにより、総合的思考力、実践的応用力を身に付けた上で創造性を発揮しながら地域創生に貢献できる人材を養成します。

●地域教育文化学部の改組（8コースから2コースへの改組）

児童教育コース 入学定員 80 [学位] 学士（教育学）

文化創生コース 入学定員 95 [学位] 学士（学術）

[改組の趣旨]

既存の8コースを「教育系」と「文化系」の2コースに再編して、実践的人材養成の機能を強化します。「教育系」は児童教育コースとし、「チーム学校の一員としての教員」を養成します。「文化系」は文化創生コースとし、地域社会における精神衛生、音楽、健康スポーツ、食文化等の創生の担い手となる「地域課題解決のスペシャリスト」を養成します。

●理学部の改組（5学科から1学科への改組）

理学科 入学定員 210 [学位] 学士（理学）

[改組の趣旨]

理工系人材に対する社会的ニーズの多様化に対応するため、既存の5学科を1学科に統合し、情報科学分野を加えて6つのコースに再編するとともに、キャリアパスに対応した3つの履修プログラムにより学修を行います。このような体制のもとで、科学技術の基礎となる理学の確固とした学理体系に基づきながら、社会の変化に柔軟に対応しつつ、各分野の専門知識を活かして科学技術革新と科学文化の創造・普及に貢献できる人材を養成します。

●工学部の改組（8学科から6学科への改組）

高分子・有機材料工学科	入学定員	140	[学位]	学士（工学）
化学・バイオ工学科	入学定員	140	[学位]	学士（工学）
情報・エレクトロニクス学科	入学定員	150	[学位]	学士（工学）
機械システム工学科	入学定員	140	[学位]	学士（工学）
建築・デザイン学科	入学定員	30	[学位]	学士（工学）
システム創成工学科	入学定員	50	[学位]	学士（工学）

[改組の趣旨]

工学部は、次の考え方に沿って、既存の8学科を6学科に再編します。

①社会ニーズに対応するため、高度ものづくりの基盤を為す、材料・化学・電子情報・機械系の基盤分野の更なる発展・充実、②本学の特徴である有機系分野の強みを活かす、③入学者の進路希望と就職先のマッチング、④学生の多様化に対応するため、学生定員の大きな学科構成とする、⑤IT人材の養成、⑥工学基盤分野と融合した建築・デザイン分野を導入、⑦早期の社会と工学の繋がりに係る理解と知識の習得。

●農学部の改組（入学定員の増）

食料生命環境学科	入学定員	165	[学位]	学士（農学）
----------	------	-----	------	--------

[改組の趣旨]

食に関する社会的ニーズとして、世界的には、食糧問題や地球温暖化に伴う食料生産の不安定さを解決することが挙げられ、また、国内的には、食糧自給率や食の安全などの食に対する国民の関心の高まりが挙げられます。これらの状況を踏まえ、入学定員を10増やすとともに、農学部の食品関連分野を担う2コース（食品・応用生命科学コース、植物機能開発学コース）の教育体制を強化し、地域創生に貢献できる人材を養成します。

●大学院理工学研究科の改組（博士前期課程12専攻のうち5専攻を1専攻に統合）

博士前期課程 理学専攻	入学定員	53	[学位]	修士（理学）
-------------	------	----	------	--------

[改組の趣旨]

急速に複雑化する科学技術に対応できる理工系人材を育てるためには、特定分野の知識の修得にとどまらず、分野横断的な発想力と技能を養成するカリキュラムが必要となってきました。この課題に対応するため、既存の5専攻を1専攻に統合し、従来分野で細分化された知識と技能にとどまらず、各分野の知識と技能を関連付けて新たな理論や技術を生み出す付加価値の高い理工系人材を養成します。

●大学院医学系研究科先進的医科学専攻の設置（生命環境医科学専攻の改組）

博士前期課程 先進的医科学専攻	入学定員	15	[学位]	修士（医科学）
博士後期課程 先進的医科学専攻	入学定員	9	[学位]	博士（医科学）

[改組の趣旨]

医学部に加えて、薬学、理学、工学、農学、獣医学、人文社会科学分野や行政機関など幅広い分野からの学生を受け入れ、重粒子線医学や放射線防護学を専門とする「放射線未来科学」、生化学・分子生物学、遺伝情報解析学、医療政策学、医学に役立つ生物統計学を学ぶ「分子疫学」、創薬科学や生命情報工学を実践する「創薬・システム医科学」の3教育コースを設置。臨床医学の素養を育むことを重視し、医学専攻との連携も進め、疾患の予防と治療を担う人材を養成します。

(お問合せ先)
企画部企画課
電話 (628) 4193

山形大学学部の改組について

(平成29年4月予定)

(現 行)

(平成29年4月～)

学部	入学定員
人文学部 人間文化学科 法経政策学科	300 100 200
地域教育文化学部 地域教育文化学科 児童教育コース 異文化交流コース 造形芸術コース 音楽芸術コース スポーツ文化コース 食環境デザインコース 生活環境科学コース システム情報学コース	240 80 20 15 20 20 35 25 25
理学部 数理科学科 物理学科 物質生命化学科 生物学科 地球環境学科	185 45 35 45 30 30
医学部 医学科 看護学科	185 125 60
工学部 機能高分子工学科 物質化学工学科 バイオ化学工学科 応用生命システム工学科 情報科学科 電気電子工学科 機械システム工学科 システム創成工学科	620 110 75 60 60 75 75 115 50
農学部 食料生命環境学科 安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース 食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース 森林科学コース 水土環境科学コース	155 155
合計	1685



学部	入学定員
人文社会科学部 人文社会科学科 人間文化コース グローバル・スタディーズコース 総合法律コース 地域公共政策コース 経済・マネジメントコース	290 290
地域教育文化学部 地域教育文化学科 児童教育コース 文化創生コース	175 80 95
理学部 理学科 数学コース 物理学コース 化学コース 生物学コース 地球科学コース データサイエンスコース	210 210
医学部 医学科 看護学科	185 125 60
工学部 高分子・有機材料工学科 化学・バイオ工学科 情報・エレクトロニクス学科 機械システム工学科 建築・デザイン学科 システム創成工学科	650 140 140 150 140 30 50
農学部 食料生命環境学科 安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース 食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース 森林科学コース 水土環境科学コース	165 165
合計	1675

山形大学大学院研究科の改組について

(平成29年4月予定)

(現 行)

研究科	入学定員
社会文化システム研究科	12
文化システム専攻(M)	6
社会システム専攻(M)	6
地域教育文化研究科	14
臨床心理学専攻(M)	6
文化創造専攻(M)	8
医学系研究科	69
医学専攻(4年制D)	26
看護学専攻(M)	16
生命環境医科学専攻(M)	15
看護学専攻(D)	3
生命環境医科学専攻(D)	9
理工学研究科	285
数理科学専攻(M)	11
物理学専攻(M)	12
物質生命化学専攻(M)	13
生物学専攻(M)	9
地球環境学専攻(M)	8
物質化学工学専攻(M)	38
バイオ化学工学専攻(M)	28
応用生命システム工学専攻(M)	23
情報科学専攻(M)	28
電気電子工学専攻(M)	34
機械システム工学専攻(M)	50
ものづくり技術経営学専攻(M)	10
地球共生圏科学専攻(D)	5
物質化学工学専攻(D)	3
バイオ工学専攻(D)	4
電子情報工学専攻(D)	4
機械システム工学専攻(D)	3
ものづくり技術経営学専攻(D)	2
有機材料システム研究科	75
有機材料システム専攻(M)	65
有機材料システム専攻(D)	10
農学研究科	42
生物生産学専攻(M)	14
生物資源学専攻(M)	16
生物環境学専攻(M)	12
教育実践研究科	20
教職実践専攻(P)	20
合計	517

(平成29年4月～)

研究科	入学定員
社会文化システム研究科	12
文化システム専攻(M)	6
社会システム専攻(M)	6
地域教育文化研究科	14
臨床心理学専攻(M)	6
文化創造専攻(M)	8
医学系研究科	69
医学専攻(4年制D)	26
看護学専攻(M)	16
先進的医科学専攻(M)	15
看護学専攻(D)	3
先進的医科学専攻(D)	9
理工学研究科	285
理学専攻(M)	53
物質化学工学専攻(M)	38
バイオ化学工学専攻(M)	28
応用生命システム工学専攻(M)	23
情報科学専攻(M)	28
電気電子工学専攻(M)	34
機械システム工学専攻(M)	50
ものづくり技術経営学専攻(M)	10
地球共生圏科学専攻(D)	5
物質化学工学専攻(D)	3
バイオ工学専攻(D)	4
電子情報工学専攻(D)	4
機械システム工学専攻(D)	3
ものづくり技術経営学専攻(D)	2
有機材料システム研究科	75
有機材料システム専攻(M)	65
有機材料システム専攻(D)	10
農学研究科	42
生物生産学専攻(M)	14
生物資源学専攻(M)	16
生物環境学専攻(M)	12
教育実践研究科	20
教職実践専攻(P)	20
合計	517



Mは修士課程又は博士前期課程、Dは博士課程又は博士後期課程、Pは専門職学位課程。

設置の趣旨・必要性

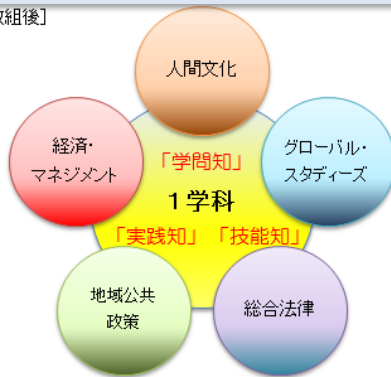
- ・ 18歳人口の減少、志願者・入学者層の変化、社会的ニーズの変化等に対応し、カリキュラムの改編を柔軟に対応できる組織へ
- ・ 地域社会が必要とする人材育成ニーズに対応した5コース制への改革とカリキュラム強化
- ・ 1学科制によるクロスディシプリナリーな教育を推進できる組織体制への改革

人文社会科学部（入学定員：290名）が養成する人材像及び特色

【養成する人材像】

- 人間文化コース
地域の文化資源を発掘・理解し的確に発信できる人材
- グローバル・スタディーズコース
地域社会のグローバル化に対応できる人材
- 総合法律コース
自治体や企業の法的課題解決力の向上に貢献できる人材
- 地域公共政策コース
地域特性に即した活性化策を創案・実践できる人材
- 経済・マネジメントコース
地域企業の経営力・競争力の強化に貢献できる人材

[改組後]



特色

【2学科制から1学科制へ】

- 総合的な視点に基づいて地域社会における人材養成ニーズに対応
1学科制による人文社会科学の総合的な教育体制を構築
- 地元高校のニーズへの対応
人文社会科学系の総合的能力・汎用的能力の養成に対応する教育プログラムの構築
- クロスディシプリナリーな教育の実現
 - ・ 学生全員が共通に身に付ける能力の養成
「ジェネリックスキル教育科目」、「実践科目」
 - ・ 各コースの一部の専門科目をコース横断的に選択・履修するしくみ

【教育課程の充実】

- (1) 社会実践力を養う実践科目群の導入
- (2) 技能科目（「言語能力」、「ジェネリックスキル（IT・統計・調査）科目群」）の新設
- (3) 専門分野に限定しない履修制度
- (4) 専門科目の順次性（ナンバリング）により内容的な進度区分による教育科目体制を構築
- (5) 基盤カテスト（「国際基盤力（英語カテスト）」、「専門学問基盤力（専門分野の学問知）」）の実施

全学的資源再配分・ガバナンス改革

- ・ 既存の人文学部の内容を発展させて、人文社会科学部へと改組
- ・ 地域の人材育成ニーズに対応し、教育内容や学生定員数を抜本的に見直し
- ・ 地域教育文化学部や理学部との教育連携体制を構築

設置の趣旨・必要性

- ・地域において「地域とつながる子どもの育成」と「文化的に豊かな人生」を支え、多様な人々・組織・団体をつないで地域の課題解決に取り組む人材が必要である。
- ・1学科2コースに再編し、人材養成機能を集約・重点化する。
- ・各コースに複数のプログラムを導入し、実践力を高める教育を行う。

地域教育文化学部 (入学定員：175名) が養成する人材像及び特色

児童教育コース (80名)

確かな学習指導・生徒指導の力を基礎として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域や家庭などと協力して、地域ぐるみで子どもの育ちを支える「**チーム学校の一員としての教員**」を養成します。

取得できる主な資格

●小学校教諭一種免許状(必須) ●中学校教諭一種免許状(国・社・数・理・英) ●高等学校教諭一種免許状(国・地歴・数・理・英) ●幼稚園教諭一種免許状 ●特別支援学校教諭一種免許状

小学校教育プログラム

卒業要件として小学校教諭一種免許状を取得します。さらに卒業要件とはしませんが、中学校教諭一種免許状(国・社・数・理・英)、高等学校教諭一種免許状(国・地歴・数・理・英)、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状のいずれかを取得できるプログラムです。

チャレンジプログラム

—教職大学院進学者を対象とした6年一貫教育—
教育実践研究科に進学することを前提に、6年一貫教育を行い、より実践的な指導力・展開力を備えた教員を養成するプログラムです。取得する一種免許状に応じて各校種の専修免許状を取得できます。

文化創生コース (95名)

地域社会における文化的な豊かさの保持と健やかで安心な生活の維持に寄与する「**地域課題解決のスペシャリスト**」を養成します。

取得できる主な資格

●中学校教諭一種免許状(音・美・保体) ●高等学校教諭一種免許状(音・美・保体) ●認定心理士申請資格

心身健康支援プログラム※

地域の健康を「こころ」と「からだ(栄養と運動)」の側面から科学的に分析し、支援できる人材を養成するプログラムです。

芸術文化創生プログラム※

芸術的なスキルの実践を通して、地域住民が文化的に豊かな生活を構築するために貢献できる人材を養成するプログラムです。

※2つのプログラムを横断的に履修することも可能です。

チャレンジプログラム

(音楽芸術・造形芸術・スポーツ科学)
—大学院進学者を対象とした6年一貫教育—
地域教育文化研究科文化創造専攻に進学することを前提に、6年一貫教育を行い、スキル向上のみならず、豊かな地域の創生に貢献するための専門的知識を養い、地域全体の発展向上をリードする人材を養成するプログラムです。

山形大学理学部 (H29改組予定)

設置の趣旨・必要性

理工系人材に対する社会的ニーズの高まりと多様化に対応するためには、科学技術の基礎となる理学の確固とした学理体系に基づきながら、分野横断的な発想を備えて社会の変化に柔軟に対応し、各分野の専門知識を活かして科学・技術の革新と科学文化の創造・普及に貢献する人材を養成する新たなカリキュラムが必要

理学部理学科 (入学定員210名) : カリキュラムの特色

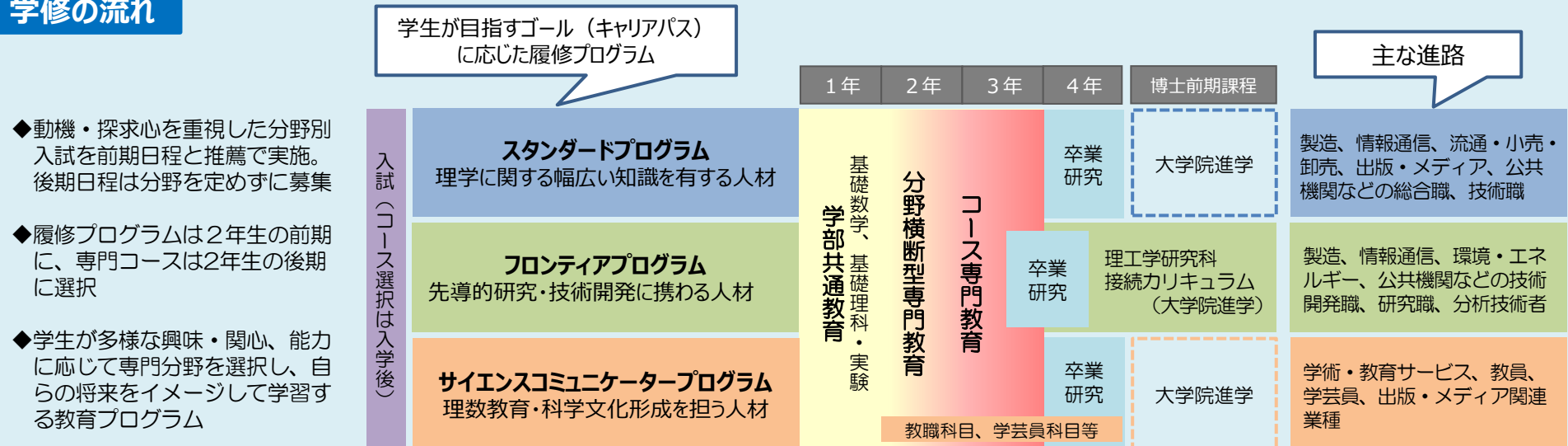
◆コース別定員を設けない6つのコース

- ・数学コース、物理学コース、化学コース、生物学コース、地球科学コース、データサイエンスコース
- ・データサイエンスコースでは、データの概念、理論、特性、数理モデルに基づくシミュレーション等の技法を学び、自然界や実社会における膨大なデータから本質的な要素・課題を的確に抽出し解決に導く能力を持つ人材を養成する

◆キャリアパスに対応した3つの履修プログラム

- ・科学的知識と科学的思考法に基づき、幅広い視点で考える能力を身に付け、社会の様々な場で活躍する人材を養成する**スタンダードプログラム**
- ・学部・大学院の実質的な6年一貫教育で、高度専門的知識・技能を身に付け、科学・技術の発展を担う人材を養成する**フロンティアプログラム**
- ・地域の教育活動に積極的に参加する意欲を持ち、理科・数学の実践的な教育技能を有する人材を養成する**サイエンスコミュニケータープログラム**

学修の流れ



改組の背景・社会ニーズ

- 優秀な頭脳の確保と活用が国際競争の鍵となる一方、我が国では人口が減少する中、次代のイノベーションを担う人材基盤の量的・質的強化が課題
- 理工系に進学しても専門分野に特化した教育が行われてしまう等の理由により、**実践能力**に課題
- **インターンシップ**等の実践力を育む教育を継続的・自律的に実施する体制を構築
- イノベーションの創出には、優れた技術や発明を社会で実現するための各要素（技術、社会システム、経営、知財、倫理）を習得した人材（**新産業創出人材**）が必要
- 企業における重要な専門分野としては、**機械、電気、建設、IT**を選択した企業が多く、さらにいずれの分野についても、大学における教育コースが高い
- 山形県では、**有機エレクトロニクス**の世界最先端分野に加え、自動車・航空機・ロボット・環境・福祉・農業関連分野に参入促進する進行戦略がある。

改組の方針

- ① 社会ニーズに対応するため、高度ものづくりの基盤を為す、材料・化学・電子情報・機械系の基盤分野の更なる発展・充実
- ② 本学の特徴である有機系分野の強みを活かす
- ③ 入学者の進路希望と就職先とのマッチング(出口を意識したカリキュラム)
- ④ 学生の多様化に対応するため、学生定員の大きな学科構成にする
- ⑤ IT人材の育成
- ⑥ 工学基盤分野と融合した新しい**建築・デザイン**分野を導入
- ⑦ 早期の社会と工学の繋がりに係る理解と知識の習得（**PBL教育を活用**）

[新]

工学部 600名※50名 ← 570名※50名

昼間コース

◆ **高分子・有機材料工学科** 140名
 ✓ 合成化学コース
 ✓ 光・電子材料コース
 ✓ 物性工学コース

◆ **化学・バイオ工学科** 140名
 ✓ 応用化学・化学工学コース
 ✓ バイオ化学工学コース

◆ **情報・エレクトロニクス学科** 150名
 ✓ 情報・知能コース
 ✓ 電気・電子通信コース

◆ **機械システム工学科** 140名
 ✓ 構造・材料・デザインコース
 ✓ 熱流体・エネルギー工学コース
 ✓ ロボット・バイオニクスコース

◆ **建築・デザイン学科** 30名

フレックスコース

◆ **システム創成工学科** ※50名
 ✓ イノベーションコース
 ✓ エンジニアリングコース
 ✓ チャレンジコース

※主として夜間に授業を行うコースの定員で学部の計欄は外数

早期の社会と工学の繋がりに係る理解と知識の習得（PBL教育を活用）

「新産業創出人育成」に向けた新教育プログラム

新産業創出人

力強い新産業を
「考案」「実現」「発展」「支援」
する人材

必要な
能力

先端性に偏り過ぎ

現教育で不十分

技術への
知識・技能

産業・社会への
理解

実践力

デザイン力

改善する
教育

基盤力の強化

学習内容と
社会をリンク

実践により
イノベーションを
体得

創造力の強化

基盤力
テスト
(学部)

基礎系講義・
実習
(大学院)

産業・知財
経営系科目

イノベーション
型
PBL

デザイン系
科目
(建築・デザイン
学科)

山形大学農学部（H29改組予定）

改組の趣旨・必要性

- ・食料生産、生命科学、環境資源問題などに取り組む、360° 広がる農学のフロンティアが評価され、農学系学部の志願者数は全国的に増えている。
- ・世界的な食糧問題、地球温暖化に伴う食料生産の不安定、日本における食糧自給率の低迷（カロリーベースで39%）、食の安全などの課題を解決するために、農学系人材に対するニーズが高まっている。
- ・「広義の農学」に含まれる食料-生命-環境に関する多面的な諸課題を理解し、複眼的で総合的な判断力やバランス感覚を有した人材の養成が求められている。

改組の特色① 入学定員増

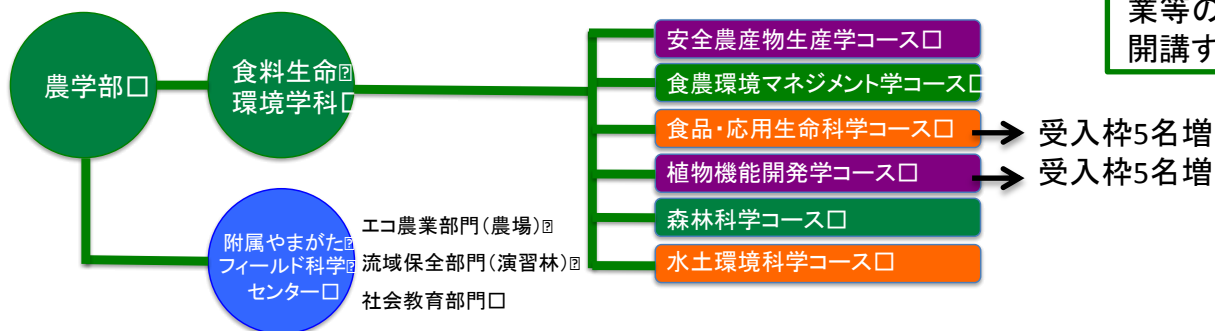
入学定員を現在の155名から10名増の**165名**とする。

学 科	入学定員	募集人員			
		一般入試		推薦入試	私費外国人
		前期日程	後期日程		
食料生命環境学科	165	95	30	40	若干人
合計	165	95	30	40	若干人

改組の特色② 食品関連分野の強化

(1) 食品関連コースの受入枠増

食品・応用生命科学コースと植物機能開発学コースの受入枠をそれぞれ5名ずつ増やし、**30名**とする。



(2) 食関連カリキュラムの充実

これまで卒業後の進路としてターゲットにしていた食品関連企業に加えて、飲料、小売業、医療業、保健衛生、教育学習支援業等の企業で活躍する人材を育成するために、新たに5科目を開講する。

- | | |
|-----------|-----------|
| ①「食と栄養」 | 開講期； 1年前期 |
| ②「酒類製造学」 | 開講期； 3年後期 |
| ③「食文化論」 | 開講期； 3年後期 |
| ④「食生活の科学」 | 開講期； 4年前期 |
| ⑤「食品学各論」 | 開講期； 4年前期 |

改組の目的、養成する人材像

- ・ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）への加盟が認められた鶴岡市から、また、北海道、秋田県に次ぐ食料自給率を誇る山形県（食糧自給率136%）から、食に関する情報を日本、世界へ発信する。
- ・「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」の3つの使命を掲げる山形大学が食をキーワードに地域創生に貢献する人材を育成する。

大学院農学研究科（修士課程）
 生物生産学専攻
 生物資源学専攻
 生物環境学専攻

設置の趣旨・必要性

- ◆「大学における理工系人材育成の在り方」（文部科学省、平成26年11月13日）
“複雑化、多様化した技術体系の教育を、従来の専攻や研究室単位の専門分化された教育システムの中で行うことは不可能になってきており、複数の指導教員が一体となり、幅広い知見を持った学生を体系的に育成することが必要”
- ◆イノベーションを創出する柔軟な発想力を備えた理工系人材を育てるためには、分野別の専門知識の修得にとどまらず、分野間で異なる論理や方法論を理解して、各分野の知識を体系的に関連づける思考力を育てる新たなカリキュラムが必要

人材養成の目標

- ◆専門分野の深い知識・技能と、幅広い理学の知識を兼ね備え、異なる分野の知識や方法論を統合して新たな理論や技術を生み出す人材を養成
①イノベーションにつながる分野横断的発想力、②理系プロフェッショナルの自覚と実践的な研究能力、③法令順守、知的財産、情報セキュリティ、安全衛生管理に関する高い意識、を備えた人材

新編成の特徴

- ◆科学・技術の基礎となる理学の学理体系に基づきながら、柔軟な科目編成ができる1専攻制の利点を活かして、複数の分野にまたがる分野横断科目を設ける。これにより、分野間で異なる論理や方法論を学び、専門知識を体系的に関連づける思考力・発想力を育成する。
- ◆情報科学（データサイエンス）分野の教員を新たに加えて、社会的要請が高まっているビッグデータや情報セキュリティの教育を強化する。
- ◆学部と大学院の一体的改革により、学部・大学院の実質的な6年一貫教育を通じて高い研究能力を育成する。
- ◆分野を越えた研究組織を編成し、イノベーション創出につながる革新的な理学の基礎研究を推進する。

【既設】 博士前期課程5専攻

数理学専攻（11名）

物理学専攻（12名）

物質生命化学専攻（13名）

生物学専攻（9名）

地球環境学専攻（8名）

学部・大学院の
一体的改革

【新編成】 博士前期課程1専攻

理学専攻
53名

1専攻の相乗効果による研究力強化

- ◆1専攻化で形成される分野横断型研究組織（研究クラスター）のメリットを活かして、新たな基礎理論・概念を生み出す革新的研究、先端的な計測・分析・解析技術に基づく創造性豊かな研究を推進する
（研究クラスターの展開例）
 - 数学×物理学×情報科学⇒新たな理論・解析技術
 - 地球科学×情報科学⇒自然災害軽減へのビッグデータの活用
 - 化学×物理学×生物学×数学⇒新たな機能性物質の創製
 - 生物学×地球科学×情報科学⇒先進的環境将来予測
 - 物理学×生物学×医学⇒先端的医療技術

山形大学大学院医学系研究科先進的医科学専攻（H29改組予定）

設置の趣旨・必要性

- ・特色の発揮を更に進めるために山形大学医学部の強みである重粒子線治療装置研究開発を中心とした放射線医学研究，ゲノムコホート研究及び創薬研究などを集中的に実施し，①重粒子線の専門家育成②臨床研究に貢献する生物統計学の専門家の育成③トランスレーショナルリサーチを遂行するための多様な人材を育成

先進的医科学専攻の設置（入学定員：博士前期課程15名／博士後期課程9名）

【養成する人材像】

低侵襲・個別化を目指した未来のがん医療の最先端研究，脳卒中，心筋梗塞，生活習慣病，認知症等を診断，治療，予防する医療を担う人材

（活躍のイメージ）

- ・重粒子線医学など粒子線治療を推進でき，更に放射線防護学に詳しい専門家として医療機関や研究施設等での活躍
- ・臨床研究，疫学研究などを推進する生物統計学の専門家として，大学，研究施設，製薬関連企業（健康食品や化粧品等の開発を行っている企業や研究機関），行政機関，医療関連機関での研究職として活躍
- ・トランスレーショナルリサーチを遂行できる専門家として大学，研究施設，医薬品企業，医療機器関連企業への就職や，臨床試験管理センター，治験等に携わる専門職での活躍

特色

【教育課程】

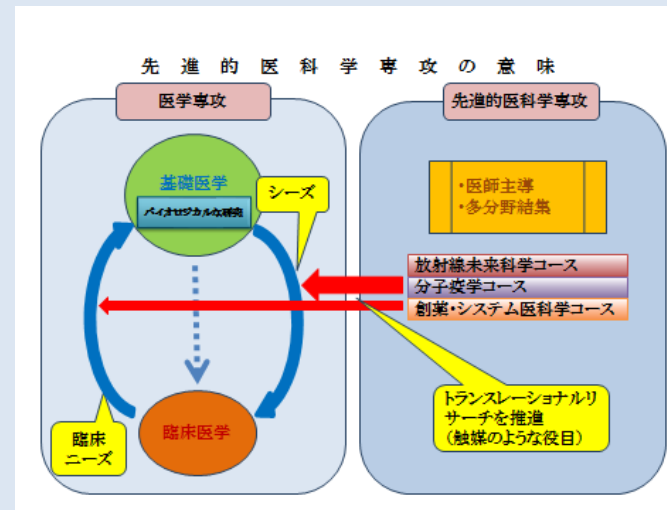
- ・重粒子線医学や放射線防護学を専門とする「放射線未来科学」，生化学・分子生物学や遺伝子情報解析学を学ぶ「分子疫学」，創薬科学や生命情報工学を実践する「創薬・システム医科学」の3つのコースを置き，3コースでは連携して教育・研究を実施
- ・臨床医学の素養を育むことを重視し，医学専攻，医学部メディカルサイエンス推進研究所及び医学部がんセンターも活用した教育を実施

【医学部卒業生にとってトランスレーショナルリサーチなど医学専攻とは異なる面からの教育カリキュラム整備】

- ・医師のキャリアアップや専門教育の教育コースも整備

【理学，工学，農学，人文社会科学分野など医学以外からの学生にも対応した教育カリキュラムを整備】

- ・医科学を基礎から勉強できるカリキュラム
- ・がん，脳卒中，心筋梗塞，生活習慣病，認知症など医学・医療分野の専門家として活躍できるカリキュラム



全学的資源再配分・ガバナンス改革

- ・既存の生命環境医科学専攻の内容を発展させて先進的医科学専攻へと改組，設置
- ・医療従事者や医療系学生に加えて，理学，工学，農学，人文社会科学分野や行政機関などへも門戸を開放
- ・理学部や工学部との教育支援体制を構築

平成28年9月8日
山形大学



山形大学発ベンチャー企業 ナチュラルプロセスファクトリー株式会社が、
県内企業 株式会社タカハタ電子 と新型常温乾燥機を共同開発

常温乾燥技術や有機EL植物工場の技術開発を展開する山形大学発のベンチャー企業ナチュラルプロセスファクトリー（本社：山形県米沢市、代表取締役：城戸淳二）は、風味や有効成分を残す新型常温乾燥機（ナチュラルドライヤー® Tall）を株式会社タカハタ電子（本社：山形県米沢市、代表取締役：安房毅）と共同開発しました。

本開発に伴い、経済産業省の補助金制度（経済産業省：ものづくり・商業・サービス革新補助金）を受けました。

常温乾燥法は、熱を加えたり凍結したりする他の乾燥法と違い、流体力学を応用して風を自由自在に操る新技術（特許第4448008号）により、乾燥機内の温度を均一に常に40℃前後で保持させ、自然に近い状態で乾燥させることができます。そのため、素材本来の味や風味、色、栄養価を維持したまま粉末加工することもでき、「乾燥しているけど、成分は生」をセールスポイントに、無添加・無着色の素材を、幅広い商品へ応用すれば、季節の変化に関わらず消費者に提供することができます。

共同開発した新型常温乾燥機（ナチュラルドライヤー® Tall）は、ドア部分にはアクリル製窓を取付けて、ドアを開けずに乾燥状態を確認することができます。

乾燥庫内においては、トレイを回転させながら乾燥することで、むらなく乾燥させる設計となっております。

また、操作モニターにはカラータッチパネルを搭載し操作性を良くしています。さらに、乾燥機庫内を清掃しやすく設計し、浮遊菌対策も施されています。

本乾燥機の販売は、株式会社タカハタ電子で9月より販売開始いたします。本機の詳細に関しましては、裏面記載の株式会社タカハタ電子までお問い合わせください。



〈プレスに関する問い合わせ先〉
ナチュラルプロセスファクトリー株式会社
TEL：0238-26-3655
Email：info@natural-process-factory.com



新型常温乾燥機(ナチュラルドライヤー® Tall)



- 処理能力:最大80kg(カット大根の場合)
 - 寸法(外寸):H1,978mm×W1,310mm×D1,620mm
 - 電源:AC200V(3相)
 - 最大消費電力:3.2kw
 - 平均消費電力:約2.1kw(電気料金:約42円/h(20円/kwhの場合))
 - 重量:520kg
 - 庫内容積:1830L
 - 容量:トレイ20枚収納タイプ(回転式)
- (※トレイ内寸:615×615×55の場合)

特許第4448008号/登録商標第5791160号/

特開2013-243980/特願2014-162454/特願2014-265046



新型常温乾燥機(ナチュラルドライヤー® 3Tall)



- 処理能力:最大240kg(カット大根の場合)
 - 寸法(外寸):H1,978mm×W3,930mm×D1,620mm
 - 電源:AC200V(3相)
 - 最大消費電力:9.6kw
 - 平均消費電力:約6.3kw(電気料金:約126円/h(20円/kwhの場合))
 - 重量:1,560kg
 - 庫内容積:5,490L(1830L×3)
 - 容量:トレイ20枚収納タイプ×3(回転式)
- (※トレイ内寸:615×615×55の場合)

特許第4448008号/登録商標第5791160号/

特開2013-243980/特願2014-162454/特願2014-265046

〈製品に関する問い合わせ先〉

株式会社タカハタ電子

〒992-0003

山形県米沢市窪田町窪田1188番地

Tel : 0238-36-0099

Email : sales@takahata-denshi.co.jp

平成28年9月8日
山形大学

常温乾燥工場、有機EL植物工場の山形大学発ベンチャー 設立へ

山形大学 城戸淳二教授、鹿野一郎准教授は、それぞれ有機ELパネル開発や常温乾燥機の開発を行っておりますが、この度、有機EL光源などを用いた植物栽培工場および常温乾燥技術を用いた食品加工を行う「株式会社ベジア」を設立いたします。新会社は、まず常温乾燥加工工場を設置し、常温乾燥技術を用いた食品の製造販売を計画しています。

常温乾燥機はすでに小型、中型機を山形大学と関連会社であるナチュラルプロセスファクトリー株式会社、そして米沢市のタカハタ電子株式会社と共同で開発済みで、まず複数の中型機をもちいて量産を行います。

食品加工工場では、地域と密接に連携し、地域の食材を主に扱い、ブランド化を図ります。山形県内に3箇所程度（置賜、村山、庄内）、近隣の新潟にも設置の予定で、全国で20～50の加工工場を設けたいと考えています。工場立地の条件は地元市町村からのベンチャー支援であり、現在、山形県内や新潟県内の市町村と協議を行っています。

1 新会社の概要

社名	: 株式会社ベジア
設立日	: 平成28年9月（予定）
所在地	: 山形県米沢市城南 4-3-16 山形大学工学部内（予定）
代表取締役社長	: 城戸淳二 山形大学・教授（就任予定）
株主	: 城戸淳二（20%）、鹿野一郎（20%）、志村勉（20%）、 藍杏林（20%）、三宅徹（20%）
資本金	: 500万円
業種	: 有機EL光源など人工光源での植物栽培、常温乾燥技術を用いた食品加工、製造販売など

（設立までの間のお問合せ先）
学術研究院 教授（大学院理工学研究科担当） 城戸淳二
電話: 0238-26-3052

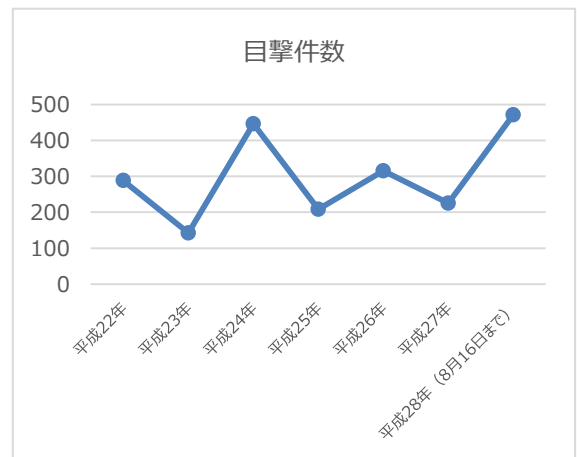
平成28年9月8日
山形大学

山形大学の研究紹介～ツキノワグマに関する研究～

今年（平成28年）はツキノワグマの目撃件数が非常に多く、山形大学にツキノワグマの生息状況に関する問い合わせが寄せられています。その中から主なご質問についてお答えするとともに、山形大学でこれまで行ってきたツキノワグマに関する研究の一部をご紹介します。

1 なぜ今年（平成28年）は目撃件数が多いのですか？

山形県のツキノワグマの目撃件数は、右図のように毎年、増減を繰り返しています。ツキノワグマが人里に多く出没する理由については、生息環境である森林での餌資源が少ないことが原因のひとつだと多くの研究者が考えていますが、直接の因果関係は証明されていません。山形県環境科学研究センターの調査では今年（平成28年）のブナは凶作と予測されており、目撃件数が多いことと合致します。



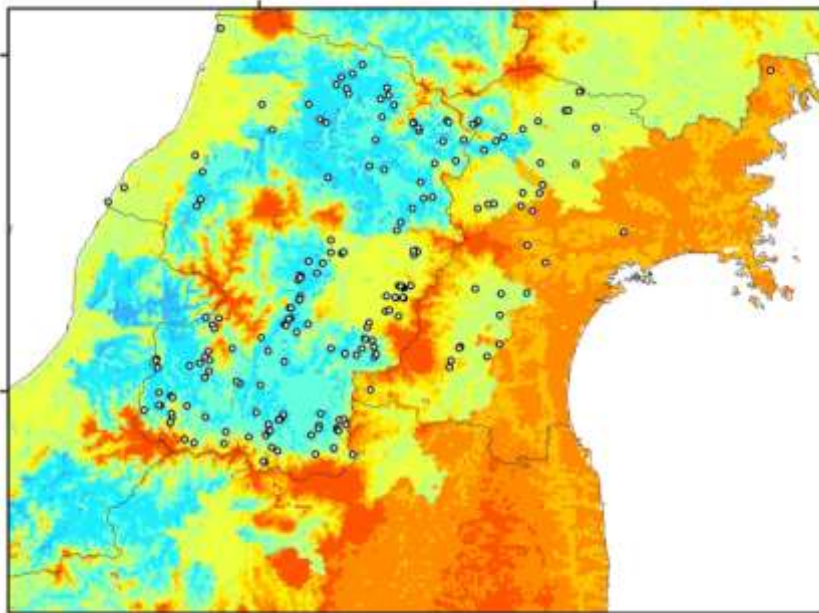
2 県内にツキノワグマは何頭いるのですか？

山形県が実施した生息調査では平成24年4月時点で約2,100頭と推定されています（第2期山形県ツキノワグマ保護管理計画、平成24年3月策定）。しかし、毎年変動する個体数を正確に把握することは困難なため、様々な調査方法・推定方法が開発されています。山形大学では、環境省の環境研究・技術開発推進費事業「クマ類の個体数推定法の開発に関する研究」で、ツキノワグマの体毛を用いた個体数推定法に関する研究を他機関（北海道環境科学研究センター、岩手県環境保健研究センター、株式会社野生動物保護管理事務所）と共同で行いました。本研究の成果を、クマ類の個体数推定のためのマニュアル（手引き）としてウェブで公開しています。<http://www.bear-project.org/chousatebiki.html> また、ヘアトラップ法の精度検証に関する研究成果を論文として発表しています（Population Ecology 54, 509-519 (2012年)）

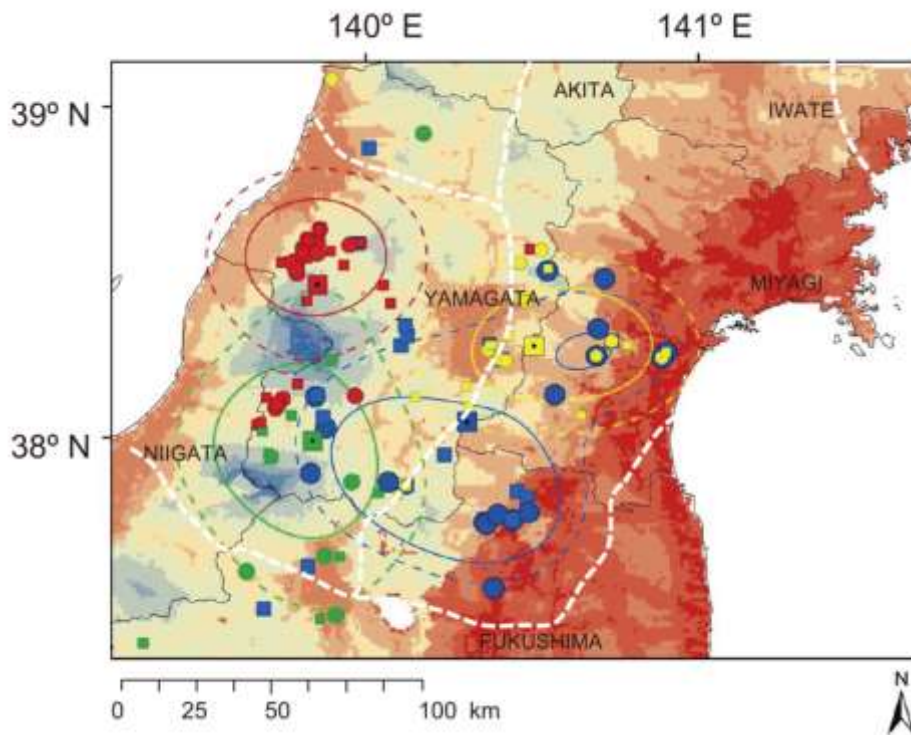
3 県内でのツキノワグマの生息環境はどうなっていますか？

山形大学では、森林総合研究所、慶応義塾大学との共同研究により、過去のツキノワグマの目撃・出没情報をデータ化して、ツキノワグマにとって好適な生息環境（habitat suitability）を統計学的に推測し、生息環境マップを作製しました（図A）。その結果、高標高地域と市街地を除く県内のほぼ全域が生息に適した環境であることが示されました。マップ上に、遺伝子解析で調べた集団構造の地理的分布を重ねたところ、県内のツキノワグマの集団構造は月山朝日飯豊山系と南奥羽山系で分かれており、両者が接する置賜地域が回廊となっていることが示されました（図B）。この結果は本年3月に論文として発表されました（Mammal Study 40, 231-244）。

以上のように、山形大学では野生動物の保護管理に資する基礎研究を行い、YU-COE(C)事業「人口減少社会適合型野生動物管理システム創生拠点」などを通じて、研究成果を社会に還元する取組を行っています。



図A ツキノワグマの好適生息環境マップ（未発表データ）
 青色が濃いほど生息に適した環境であることを示す。○印はツキノワグマの目撃地点（1995年～2013年）



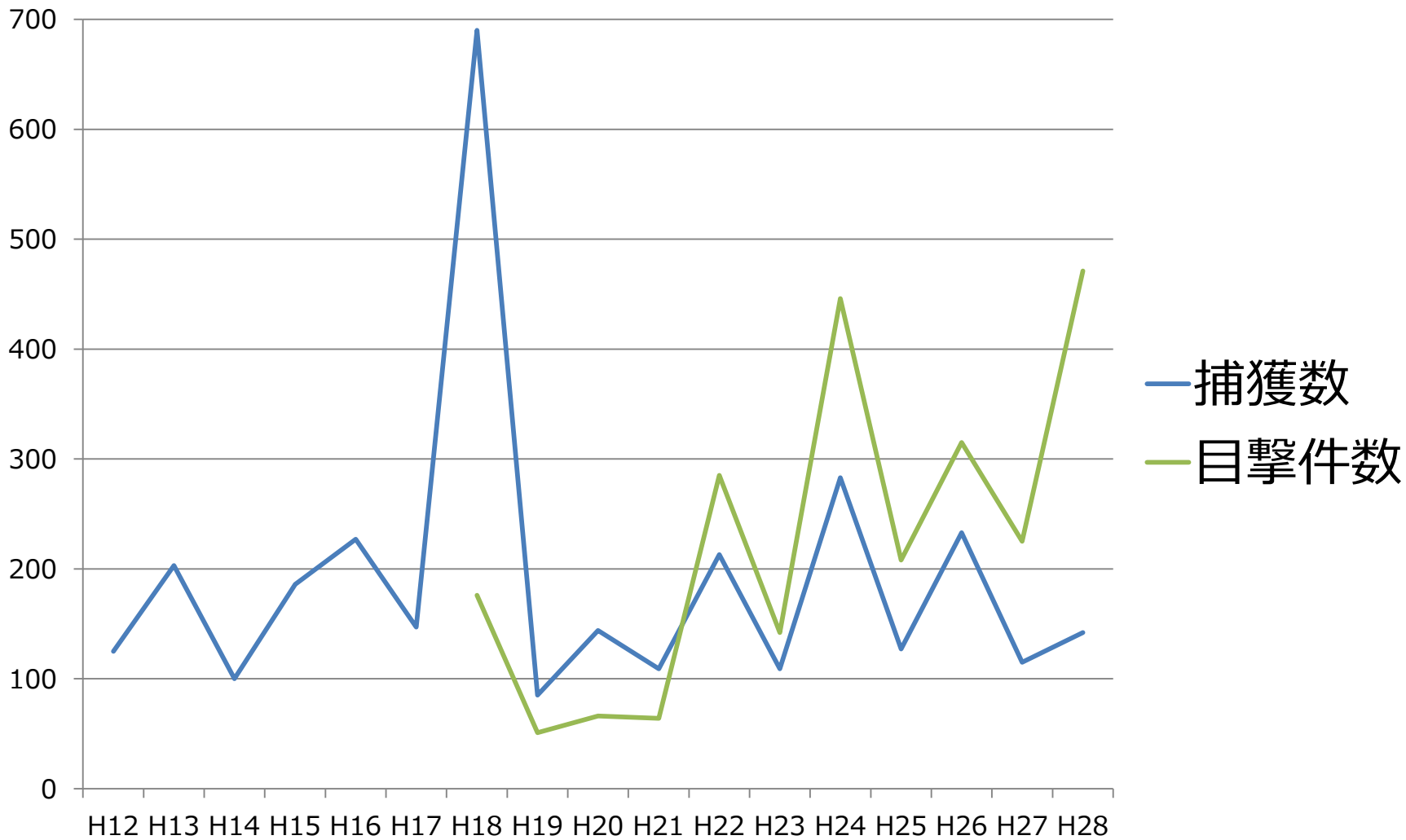
図B ツキノワグマの遺伝的集団構造
 赤、緑、黄、青のラインは県内での分集団構造の中心地域を示す。
 （Mammal Study掲載論文より）

（お問合せ先）
 学術研究院 教授（生態遺伝学） 玉手英利
 電話 023-628-4620

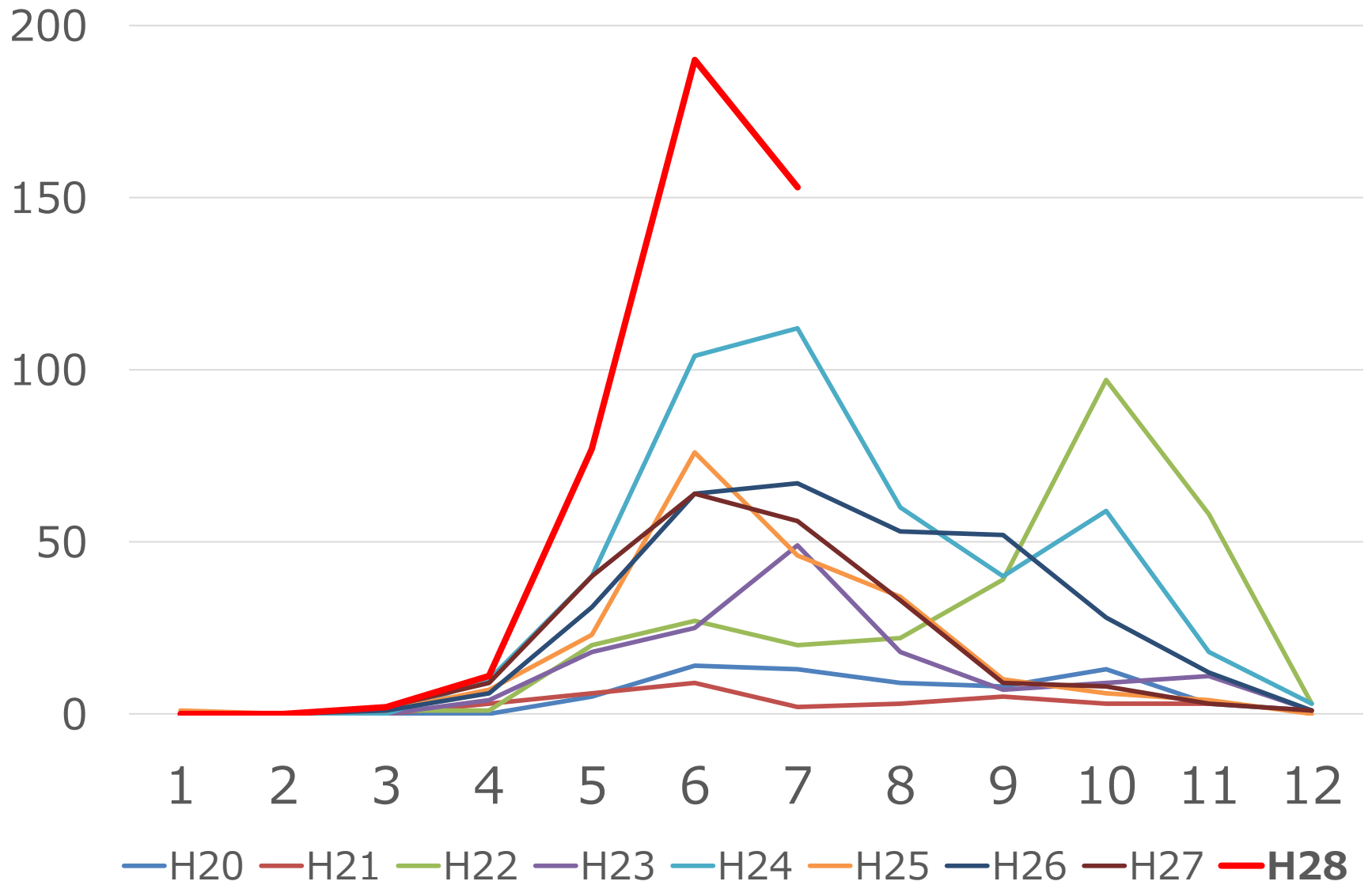
山形大学の研究紹介

～ツキノワグマに関する研究～

ツキノワグマ目撃件数・捕獲数（平成12～28年）



ツキノワグマ月別目撃件数（平成20～28年）



クマ類の個体数推定の課題

従来手法

直接観察法、捕獲-人工標識法、捕獲数・統計的手法



推定精度、コスト面で多くの課題



新しい手法(国内:H16~)

遺伝的標識法 = ヘア・トラップ法

+

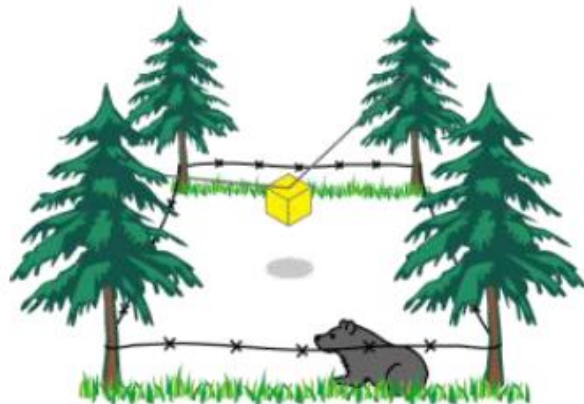
生態標識法 = カメラ・トラップ法



直接観察法(春季)



捕獲-
標識法



クマ類の個体数推定法の開発に関する研究

● [トップページ](#)

● [研究概要・会議録](#)

● [調査手引き](#)

● [報告書・論文](#)

● [DNA分析](#)

● [現地調査](#)

● [リンク・関連資料](#)

● [アーカイブ](#)

● [Contact](#)

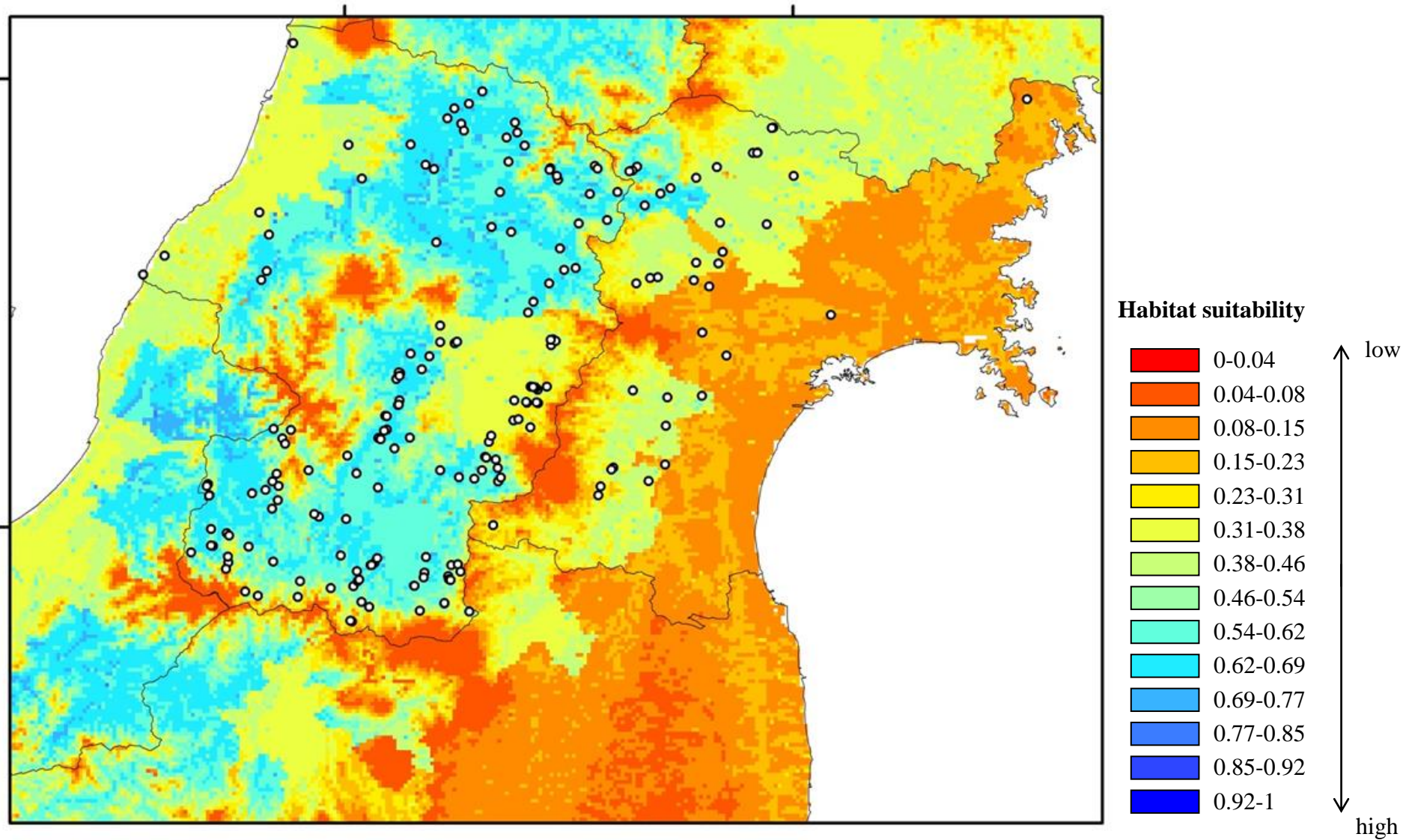
● [研究チーム資料](#)

このウェブサイトでは、環境研究総合推進費による「クマ類の個体数推定法の開発に関する研究」(課題番号 S2-1、平成21-23年度)の成果を紹介しています。クマ類の個体数調査の中でも、ヘアトラップ法、DNA分析による個体識別、カメラトラップ法、空間明示モデルによる個体数推定法、に関して重点的に紹介しています。

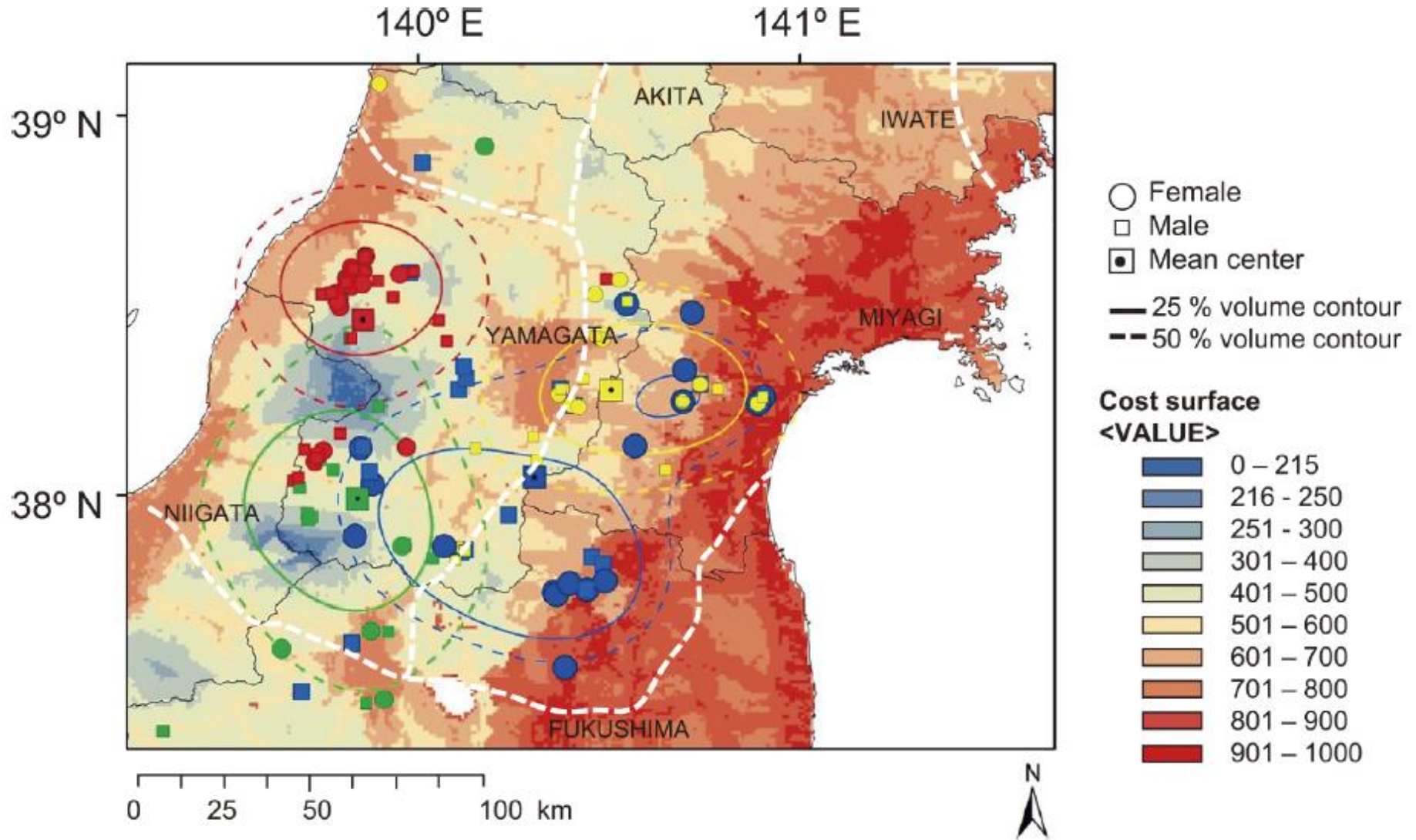
News & Topics

- 2012/6/6
【調査手引き】ページに”クマ類の個体数を調べる(手引き-統合版)”を追加しました。
- 2012/2/28
【DNA分析】ページに”遺伝子分析データの精度管理と標準化のためのデータ解析環境:共有プラットフォーム(β版)”を設置しました。
- 2012/2/27
【研究チーム資料】ページに第2回AD会合の会議資料を追加しました。
- 2011/12/6
【研究チーム資料】ページに現地打ち合わせ記録を追加しました。

ツキノワグマの好適生息環境マップ



ツキノワグマの保護管理ユニット



平成28年9月8日
山形大学

「第3回東北野生動物管理研究交流会 in せんだい」を開催します！

山形大学YU-COE(C)採択事業として2014年度からスタートした「人口減少社会適合型野生動物管理システム創成拠点」において、東北地方の野生動物管理を推進することを目的とした産官学交流イベント「東北野生動物管理研究交流会 in せんだい」を11月12日に東京エレクトロンホール宮城（仙台市）にて開催します。

【開催目的】

野生動物による産業・生活基盤への影響は、深刻な社会問題として議論されるようになりました。これら問題の主因として、野生動物の個体数の増加と同時に、農村や、その周辺域における急速な人口減少が考えられます。そのため、人口減少率が高い東北において、縮小社会に適応した新たな野生動物管理システムの構築が今まさに求められています。この研究交流会では、東北各地の昨今の取り組み事例から課題を共有・整理し、問題解決に向けた産官学の役割について議論していきます。

第3回となる交流会では、仙台セッションとして東北地方に分布回復するシカに焦点をあて、岩手・宮城・福島・山形の4県の現状と課題について共有します。また、2つの基調講演を予定しており、人口減少時代において薄れつつある人と自然の関わりを再生するための取り組み、さらには今年世間の注目を集めているクマの保護管理の最新知見をご紹介します。

【実施概要】

日時：2016年11月12日（土曜日）

開催場所：東京エレクトロンホール宮城（会場：601大会議室ほか）

実施体制：主催：山形大学人口減少社会適合型野生動物管理システム創成拠点
(同)東北野生動物保護管理センター

後援：宮城県（予定）、「野生生物と社会」学会

実行委員会：玉手英利・林田光祐・江成広斗（山形大学）、斉藤正一（山形県森林研究研修センター）、宇野壮春・関健太郎・鈴木淳（同)東北野生動物保護管理センター、交流会事務局）、奥田圭（福島大学）、江成はるか・奥田加奈（野生動物調査団）



写真：昨年度の交流会福島大会におけるポスター発表の様子

申し込み先

<http://four-m.jp/yu-coe2016/>

（お問合せ先）

学術研究院 准教授

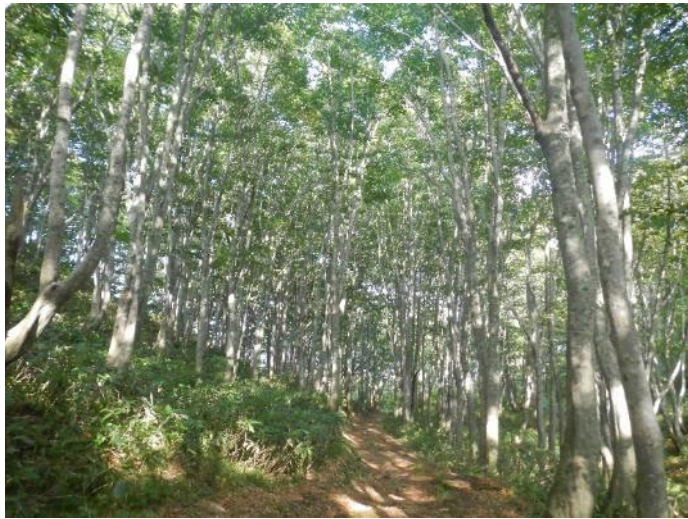
江成広斗（森林保全管理学）

電話：0235-28-2925

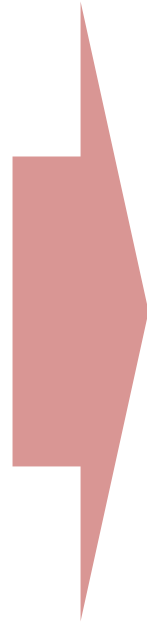
E-mail: enari@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

交流会の目玉①

今年深刻化が予想されているクマ問題



ブナの大凶作
(地域的には皆無)



人身事故
農業被害
の拡大抑制



クマ個体群
の保護

交流会の目玉②

東北各地に広がるシカ問題



写真：飯豊山登山口にて今年撮影



写真：シカのロードキル
(飯豊町にて昨年発生)



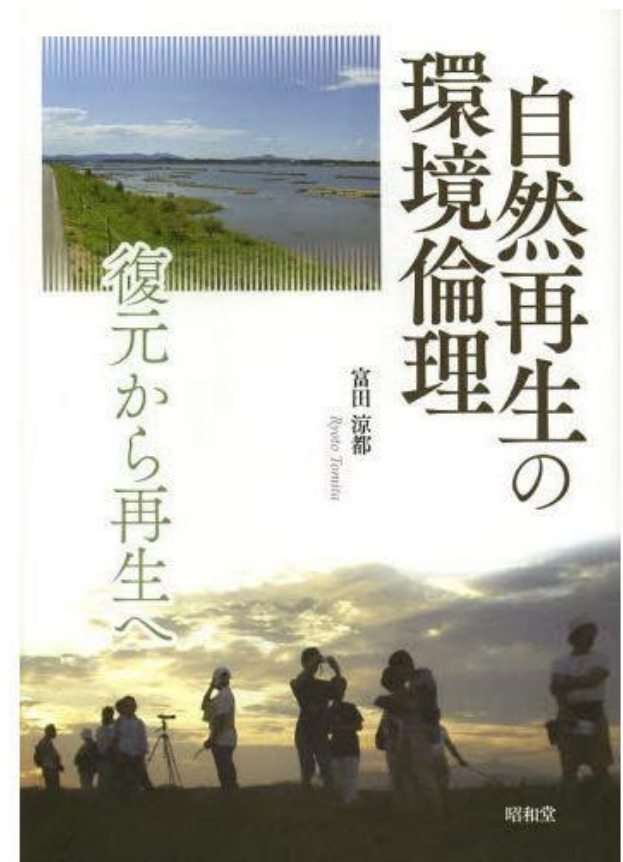
写真：シカに破壊される森
(栃木県日光市)

人口減少社会における人と野生動物のかかわりの再生

「環境倫理」から考える持続可能な共存

人口減少社会において、
人と野生動物との持続可能な
「かかわり」とは何か？

「形だけの再生（復元）」から
「人と自然のかかわりの再生」へ



YU-COE 「山形大学先進の研究拠点（C）」形成支援

拠点名称：

人口減少社会適合型野生動物管理システム創成拠点

拠点構成員：

【 学 内 】

- 江成 広斗（農・准教授）⇒拠点統括
- 林田 光祐（農・教授）⇒環境影響評価
- 林 雅秀（農・准教授）⇒社会学的評価
- 玉手 英利（理・教授）⇒遺伝学的評価
- 半澤 直人（理・教授）⇒遺伝学的評価

【 主な学外協力者 】

- 斉藤 正一（山形県森林研究研修センター・研究主幹）
- 宇野 壮春（[同]東北野生動物保護管理センター・代表）
- 奥田 圭（福島大学環境放射能研究所・助教）

東北における野生動物管理研究の拠点をめざす！

野生動物問題の解決を困難にさせている要因

- 野生動物問題に対応する知見や技術の不足
- **集落の空洞化**⇒野生動物の勢いを制御できない

人（＝担い手）が確保できることを念頭にした
従来の野生動物管理学では**対応困難**

日本型（＝人口減少社会適合型）の

新しい野生動物管理システムが必要

基調講演

生態系と社会のダイナミズムを見据えた
これからの人と自然の関係性のあり方

富田 涼都 氏(静岡大学農学部生物資源科学科准教授)

ツキノワグマの保護管理

中川 恒祐 氏((株)野生動物保護管理事務所主任研究員)

仙台セッション

東北地方に
分布回復するニホンジカ

山内 貴義 氏・佐々木 智恵 氏・奥田 圭 氏・古澤 優佳 氏
蛭原 紘子 氏・倉本 幸輝 氏

ポスター発表

野生動物に関する事例紹介

発表者募集中

懇親会

参加者の皆様と交流しましょう!

要事前申込み

東北
の

野生動物
管理を

考
える

2016年11月12日(土)

10時00分 - 17時10分(開場9時30分)

東京エレクトロンホール宮城

601大会議室ほか

入場無料 要申込み(裏面参照)

申込締切 2016年10月23日(日)

定員 先着150名

第3回東北野生動物管理研究交流会 in せんだい

[主催] 山形大学YU-COE(C)人口減少社会適合型野生動物管理システム創生拠点研究交流会実行委員会 合同会社東北野生動物保護管理センター
[後援] 宮城県(予定) 「野生生物と社会」学会
[研究交流会実行委員] 山形大学:玉手英利, 林田光祐, 江成広斗 山形県森林研究研修センター:齊藤正一
合同会社東北野生動物保護管理センター(交流会事務局):宇野壮春, 関健太郎, 鈴木淳 福島大学:奥田圭 野生動物調査団:江成はるか, 奥田加奈

開催趣旨

野生動物によってもたらされる産業・生活基盤への影響は、深刻な社会問題として広く議論されるようになりました。これら問題の主因として、野生動物の個体数の増加と同時に、農村や、その周辺域における急速な人口（＝担い手）の減少が考えられます。そのため、人口減少率が高い東北において、縮小社会に適応した新たな野生動物管理システムの構築が今まさに求められています。この研究交流会では、東北各地の昨今の取り組み事例から課題を共有・整理し、問題解決に向けた産官学の役割について議論していきます。

本交流会の仙台セッションでは、東北地方に分布回復するシカに焦点を当て、岩手、宮城、福島、山形の4県の現状と課題について共有します。また、2つの基調講演を予定しており、人口減少時代において薄れつつある人と自然の関わりを再生するための取り組み、さらには今年世間の注目を集めているクマの保護管理の最新知見をご紹介します。

開場 09:30

仙台セッション 10:15 - 12:15

東北地方に分布回復するニホンジカ

- 山内 貴義 氏 岩手県環境保健研究センター
佐々木 智恵 氏 宮城県林業技術総合センター
奥田 圭 氏 福島大学環境放射能研究所
古澤 優佳 氏 山形県森林研究研修センター
蛸原 紘子 氏 小国町猟友会
倉本 幸輝 氏 山形県環境エネルギー部

基調講演 14:45 - 17:00

生態系と社会のダイナミズムを見据えた これからの人と自然の関係性のあり方

富田 涼都 氏 静岡大学農学部生物資源科学科准教授

ツキノワグマの保護管理

中川 恒祐 氏 (株)野生動物保護管理事務所主任研究員

懇親会 18:00 - 20:30

参加者の皆様と交流しましょう！

店名 マルシェ居酒屋夜市（会場より徒歩10分）

住所 仙台市青葉区一番町3-8-1ラ・ベル・ヴィ4F

定員 先着100名

会費 （一般）3,500円 （学生）3,000円

（参加をご希望の方に後程提示致します）

※事前の申込みが必要です。当日参加は受け付けておりませんので、ご注意ください。

お申込み・お問い合わせ先

合同会社東北野生動物保護管理センター

URL <http://four-m.jp/yu-coe2016/>

E-mail yu-coe2016@four-m.jp

申込締切 2016年10月23日（日）

10:00 - 10:15

開会挨拶・趣旨説明

12:30 - 14:30

ポスター発表

野生動物に関する事例紹介

発表例

- 鳥獣対策の事例紹介や事例報告
- 野生動物の生態に関する基礎・応用研究
- 野生動物の問題解決に向けた地域づくり

発表者募集中
（先着30題）

※野生動物に関する事例のみを対象とします。愛玩動物は含まれませんのでご了承ください。

※企業ブースはポスター発表のみとさせていただきます。

※発表をご希望の方は、お申込みの際に入力下さい。サイズは、縦120 cm×幅120 cmとなっております（掲示の際は、虫ピン以外はご使用になれません）。

17:00 - 17:10

総括・閉会

東京エレクトロンホール宮城

住所

仙台市青葉区国分町3-3-7

交通

JR仙台駅から徒歩約25分

仙台市営地下鉄南北線「勾当台公園駅」から徒歩約5分

仙台市営バス「定禅寺通り市役所前」から徒歩約5分

東北自動車道「仙台宮城I.C.」から約11分

駐車場

有料地下駐車場有り（普通乗用車9台）



平成28年9月8日
山形大学

第9回山形大学高校生朗読コンクール/群読劇の開催について

山形大学特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」の事業として、10月9日（日）に、第9回山形大学高校生朗読コンクールと群読劇「恩讐の彼方に」を開催します。

◆概要

このプロジェクトは、平成20年度に始めた「山形大学高校生朗読コンクール」と同時に、群読劇を上演するという内容で、平成24年度から開催しています。東北の未来を考えるために、東北の人びとが中心となって東北の地で表現するという催しです。

日時：10月9日（日） 13時～17時

第一部：山形大学高校生朗読コンクール

第二部：群読劇「恩讐の彼方に」

場所：遊学館ホール（山形県生涯学習センター）（〒990-0041 山形市緑町1-2-36）

◆朗読コンクール

- ・東北6県の高校生134名（26校）からの応募があり、山形大学教員からなる予選審査委員会の選考により本選出場者12名が決定しました。
- ・予選を通過した12名が、山形県高島町出身の浜田廣介の『浜田廣介童話集』（ハルキ文庫）に収録されている童話から、それぞれ異なる部分を朗読します。
- ・本選では、上位3名を山形大学学長賞として表彰します。

<本選出場者：発表順>

1. 郡山女子大学附属高等学校	上遠野 もも
2. 宮城県仙台南高等学校	小澤 皐
3. 福島県立磐城高等学校	田中 亜美
4. 山形県立山形北高等学校	伊藤 直奈
5. 聖ウルスラ学院英智高等学校	徳永 柚衣子
6. 山形県立寒河江高等学校	柏倉 さくら
7. 福島県立磐城高等学校	長瀬 萌々子
8. 宮城県仙台南高等学校	横田 芽生
9. 山形県立山辺高等学校	平間 杏奈
10. 聖ウルスラ学院英智高等学校	鎌田 陽菜
11. 聖ウルスラ学院英智高等学校	鎌田 歩乃佳
12. 山形城北高等学校	真壁 菜々実

◆群読劇

- ・今年度は、菊池寛の名作「恩讐の彼方に」を題材とした群読劇（集団での朗読を主体とした劇形式）を上演します。
- ・群読劇「恩讐の彼方に」は、酒田市出身の演出家 佐藤正文氏から演出を担当いただき、山形の一般市民と子どもたち、山形大学の学生およそ40名が一体となって舞台をつくります。

（お問合せ先）

エンロールメント・マネジメント部社会連携課

電話：023-628-4016

第9回山形大学

高校生朗読コンクール

群読劇

浜田 廣介作品より

恩讐の彼方に

原作 菊池 寛

山形大学特別プロジェクト
いま、言葉を東北の灯に

【日時】

平成28年10月9日(日)

開場 13:00 開演 13:30

第一部 高校生朗読コンクール

第二部 群読劇 恩讐の彼方に

第三部 表彰式

(終演予定 17:00)

【会場】

山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール
(山形市緑町1丁目2-36)

【入場料】

一般1,000円(当日受付にてお支払いください。)

学生・高校生以下無料 全席自由

【入場申込先・申込方法】

下記に郵送・FAXまたは電子メールでお申し込み
ください。入場料は当日受付でお支払いください。

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
山形大学 EM 部社会連携課

FAX 023-628-4491

メール embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【お問い合わせ】

電話 023-628-4016

主催 国立大学法人山形大学

共催 山形県教育委員会

第9回山形大学高校生朗読コンクール～浜田廣介作品より～

群読劇「恩讐の彼方に」

【朗読コンクール・群読劇について】

山形大学高校生朗読コンクールは東北出身の作家の文章・東北を描いた作品を課題として取り上げ、将来の東北を担う若い才能を発掘します。東北6県から応募して予選を突破した高校生たちが、山形県出身の童話作家である浜田廣介の作品を朗読します。また、群読劇「恩讐の彼方に」(原作:菊池寛)では演出に酒田市出身の佐藤正文さんを招き、山形の子どもたち、一般市民の皆さん、山形大学生とともに舞台を作り上げます。

【演出・出演】



佐藤 正文 (さとう・まさふみ)

演技トレーナー、演出家、俳優。尚美学園大学芸術情報学科客員教授、日本大学芸術学部非常勤講師。

桐朋学園大学演劇専攻科卒業。劇団俳優座、安部公房スタジオを経てフリー。俳優座劇場プロデュース、無名塾、地人会などの公演に多数出演。1996年米国コロンビア大学の安部公房シンポジウムで演技術・安部公房システムを紹介。平成26年度山形市舞台芸術セミナー「朗読講座」の講師を務める。大手芸能プロダクションで演技レッスンを担当、多数の俳優を育成する。

【浜田廣介プロフィール】

山形県東置賜郡高島町出身の童話作家で「日本のアンデルセン」とも呼ばれている。

日本の児童文学の先駆的存在で、作家人生50余年の間に、約1000編もの童話や童謡を世に送り出した。

代表作品は「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」「呼び鳥(よぶこどり)」「むく鳥の夢」など。

【「恩讐の彼方に」あらすじ】

カン タン コン...キン カン タン... コン キン カン...カン カン カン...

深い洞窟の中から、岩盤を削る音が鳴り響き続けている。了海は、自らの身体をボロボロにしながら槌を振り続けていた。頭ではもう何も考えてはいない。ただ過去の「過ち」と「恩讐」を心の奥に秘めながら、それを償うため、今そして未来を生きる人々を救うためだけに、腕を振り続けている。若き日の了海、市九郎は何を見たのか。そして、彼に向けられた「恩讐」を知った人々の心は.....。

【入場申込方法】 入場には事前の申し込みが必要です(当日も入場を受け付けます)

下記申込書により郵送または FAX、あるいは必要事項を記した電子メールでお申込みください。

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学EM部社会連携課

(FAX) 023-628-4491 (メール) embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

入場料:1,000円(当日受付にてお支払いください。)

当日、事前にお申し込みの方はお名前を確認させていただきます。お申し込みでない方は受付簿にご記名ください。

※申込書にご記入頂いた個人情報、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。

平成28年度 第9回山形大学高校生朗読コンクール/群読劇「恩讐の彼方に」

入場申込書

代表者氏名(ふりがな)			
代表者住所	〒 -		
電話番号	-	-	FAX - -
複数人での申し込みの場合は、観覧希望者全員のお名前(ふりがな)を下記にご記入ください。			
申し込み人数(5名まで)	同行者氏名(ふりがな)		
学生・高校生以下	人		
一般	人		

平成28年9月8日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 平成29年度山形大学「推薦入試学生募集要項」及び「社会人入試学生募集要項」について

山形大学各学部で実施する「推薦入試」及び人文社会科学部、地域教育文化学部、工学部で実施する「社会人入試」の学生募集要項を公表します。

2. 第6回学長特別講演会シリーズ「山形から世界へ」を開催します

本学の3つの使命「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」を発信するため、昨年度から開催している学長特別講演会を今年度も引き続き開催します。今回は、「山形から世界へ、世界を山形に〜共生社会の創造でグローバル次世代形成を〜」と題して、三井物産株式会社 石川博紳 顧問にご講演いただきます。

日時：平成28年10月11日（火）16：30～18：00

会場：小白川キャンパス人文学部1号館301教室

3. 「平成28年度奥の細道マイスター養成事業 特別講演」について

山形大学では平成24年度に「奥の細道マイスター事業」をスタートしました。

元禄2年（1689年）の芭蕉のみちのくの旅を学んで東北の歴史・文化について語ることのできるボランティアガイドの育成を行いつつ、大震災後の東北の文化によるネットワークを構築する取り組みです。

今回鶴岡市で中級講座を開講するにあたり、講義の一部を特別講演として広く一般に開放します。

日時：平成28年11月12日（土）13：00～16：00

会場：山形大学農学部、藤沢周平記念館ほか

定員：30名

受講料：1,000円（事前のお申込みが必要です。）

受付：平成28年9月8日（木）～10月31日（月）

4. ひらめき☆ときめきサイエンス

『算数・数学マジックを楽しもう！～「なぜ？」&「なるほど！」の世界2016～』を開催します

県内の小学5年生～中学2年生20名を対象に、算数・数学を使った「マジック」や「トリック」を楽しみます。「マジックショー」を観て楽しんだ後、参加したみなさんの力を合わせて、マジックのカラクリや仕組みを見破っていきます。さらに、新たな算数・数学マジックづくりにもチャレンジします。

日時：平成28年10月30日（日）10：00～15：10

会場：地域教育文化学部2号館

対象：山形県内の小学5年生～中学2年生、20名

受講料：無料

申込：10月17日（月）必着

平成28年9月8日
山形大学

平成29年度山形大学「推薦入試学生募集要項」 及び「社会人入試学生募集要項」について

山形大学各学部で実施する「推薦入試」及び人文社会科学部、地域教育文化学部、工学部で実施する「社会人入試」の学生募集要項を公表します。

1 入学者選抜方法及び昨年度からの変更点について

- 人文社会科学部（平成29年4月の学部・学科再編に伴い人文学部から名称変更）
 - ・コース単位で選抜を行います。
 - ただし、総合法律コース、地域公共政策コース及び経済・マネジメントコースは、3コースを1つの単位として選抜を行います。
- 地域教育文化学部
 - ・コース単位で選抜を行います。
 - ただし、文化創生コースは、選抜区分単位で選抜を行います。
- 理学部
 - ・推薦入試は、選抜区分単位で選抜を行います。
- 医学部
 - ・医学科、看護学科において、以下のとおり募集人員を変更しました。

医学科（推薦入試Ⅱ）	5人増（昨年度 25人 → 30人）
看護学科（推薦入試Ⅰ）	2人減（昨年度 22人 → 20人）
- 工学部昼間コース
 - ・推薦入試は、学科単位で選抜を行います。
 - ただし、化学・バイオ工学科及び情報・エレクトロニクス学科は、コース単位で選抜を行います。
 - ・推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない推薦入試）において、建築・デザイン学科を除く学科（コース）で出願要件②による募集を行います。
- 工学部フレックスコース
 - ・推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す推薦入試）を廃止しました。
- 農学部
 - ・食料生命環境学科において、以下のとおり募集人員を変更しました。

食料生命環境学科（推薦入試Ⅰ）	10人増（昨年度 30人 → 40人）
-----------------	---------------------

2 入学者選抜実施教科・科目等について

実施教科・科目については、「平成29年度山形大学入学者選抜要項」で公表している内容から変更ありません。

3 選抜日程について

推薦入試Ⅰ	出願期間	平成28年11月 1日(火)～11月 4日(金)	
	選抜期日	平成28年11月12日(土)～11月17日(木) の間に実施	
	合格発表	平成28年11月25日(金)	
推薦入試Ⅱ	出願期間	理学部	平成29年 1月16日(月)～ 1月19日(木)
		医学部	平成28年11月 1日(火)～11月 4日(金)
		工学部	平成29年 1月16日(月)～ 1月20日(金)
	選抜期日	理学部	平成29年 1月28日(土)
		医学部	平成28年11月16日(水)
		工学部	平成29年 1月28日(土)
合格発表	平成29年 2月 6日(月)		
社会人入試	出願期間	人文社会科学部	平成28年10月19日(水)～10月21日(金)
		地域教育文化学部	平成28年11月 1日(火)～11月 4日(金)
		工学部	平成28年10月18日(火)～10月20日(木)
	選抜期日	人文社会科学部	平成28年11月 5日(土)
		地域教育文化学部	平成28年11月16日(水)
		工学部	平成28年11月12日(土)・13日(日) (本学部が指定するいずれかの日)
合格発表	平成28年11月25日(金)		

4 募集要項等の請求方法について

「推薦入試学生募集要項」は、山形大学ホームページ(パソコン、スマートフォン、携帯電話)から請求してください。また、山形大学小白川キャンパス内のインフォメーションセンターあるいは各学部入試担当窓口でも配布しております。

なお、「社会人入試学生募集要項」は、冊子体を作成しておりませんので、山形大学のホームページ(<http://www.yamagata-u.ac.jp/>)「入試案内」「入学者選抜要項・学生募集要項」の「平成29年度社会人入試学生募集要項」から直接ダウンロードしてください。

<p>(お問い合わせ先) イノ-ルネット・マシナリ外部入試課 前田・豊田 電話 023(628)4141</p>



学長特別講演会シリーズ 第6回

山形から世界に、 世界を山形に

—共生社会の創造でグローバル次世代形成を—

平成28年

10月11日(火)

16:30~18:00

会場:

山形大学小白川キャンパス
人文学部1号館301教室



講師：石川 博紳氏

(いしかわひろのぶ / 三井物産株式会社顧問)

国際基督教大学卒業後三井物産株式会社に入社。エネルギー部門では「オイルトレーダー」として東京、シンガポール、ロサンゼルスで勤務。その後、人事部門に移り人事総務部長として採用、人材育成、人事施策全般に携わる。また、ハーバードビジネススクールなどと協力して人材開発プログラムを策定し、グローバル人材育成に努める。2015年から今年3月まで専務執行役員三井物産株式会社ヨーロッパ社長。(在ロンドン)

対象

学生、高校生、一般 (定員210名)

お申し込み方法

住所、氏名(ふりがな)、年齢(学生は大学・学部・学科)、電話番号をご記入の上、下記のアドレスまでご送信下さい。

(送信先) koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
(締切) 2016年10月5日(水)

プログラム

[司会] 山形大学特任教授 土井 正己

- 16:30 開会の挨拶
(山形大学長 小山清人)
- 16:40 講演
- 17:30 対談 (石川氏、小山学長)
- 18:00 閉会

会場へのアクセス・
お申し込みメールアドレス
はこちらから

お問い合わせ

山形大学総務部総務課広報室
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
TEL 023-628-4008 FAX 023-628-4013
URL <http://www.yamagata-u.ac.jp>



山形大学 学長特別講演会 シリーズ



山形大学では、「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」の3つを使命として掲げ、改革を推進しています。

「山形から世界に通用する技術やプロダクト・学術研究をどんどん生み出そう。そして、山形を元気にして地域創生につなげよう」というコンセプトを、より広く発信し定着させるため、学生、教職員、高校生、一般市民を対象とした学長主催の特別講演会を定期的を開催しています。

第6回講演

山形から世界に、世界を山形に ～共生社会の創造でグローバル次世代形成を～

講師 石川 博紳 氏 (三井物産株式会社顧問)

【講師よりメッセージ】

今年は訪日外客数が6月まで半年で11百万人を突破。人、モノ、カネ、サービスのグローバル化は地域を超えあらゆる日本の社会に及んでいます。課題はグローバル人材育成。地域で、世界で活躍できる次世代の形成こそ地域創生の鍵となっていると思います。グローバル人材に関する定義・議論は数多くありますが、総合商社のビジネスの現場で悩んだこと、また人事施策遂行の担当者として考えたことなど、人材育成に携わった経験からのメッセージを皆さんに送りたいと思います。



事前申込制・先着順(定員210名)

住所、氏名(ふりがな)、年齢(学生は大学・学部・学科)、電話番号をご記入の上、メールでお申込み下さい。

送信先: 山形大学広報室
koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

交通・会場ご案内

JR山形駅下車、バスで約10分
※駐車場がございません。山形大学シャトルバスか公共交通機関をご利用下さい。



平成28年9月8日
山形大学

『平成28年度奥の細道マイスター養成事業 特別講演』について

11月12日(土)に鶴岡市において、平成28年度奥の細道マイスター養成事業 特別講演を開講します

山形大学では平成24年度に「奥の細道マイスター事業」をスタートしました。

元禄2年(1689年)の芭蕉のみちのくの旅を学んで東北の歴史・文化について語ることのできるボランティアガイドの育成を行いつつ、大震災後の東北の文化によるネットワークを構築する取組みです。

今回鶴岡市で中級講座を開講するにあたり、講義の一部を特別講演として広く一般に開放します。

『おくのほそ道』に加えて、山形大学地域教育文化学部の前身の山形師範学校を卒業した作家、藤沢周平の作品世界を探訪します。

【公開講座概要】

- ・日 時：平成28年11月12日(土) 13:00~16:00
- ・場 所：山形大学農学部、藤沢周平記念館ほか
- ・内 容：第一部 文学散歩「奥の細道ゆかりの地」を散策
第二部 講演「庄内の風土と文学～江戸から現代まで」
- ・定 員：30名
- ・受 講 料：1,000円(事前のお申込みが必要です。)
- ・申込方法：チラシ裏面の受講申込書により郵送、FAX、メールのいずれかでお申込みください。
- ・受付期間：平成28年9月8日(木)~10月31日(月)

※内容、その他の詳細は別紙チラシをご覧ください。

(お問合せ先)
山形大学EM部社会連携課
電話 023-628-4016

平成28年度

山形大学 奥の細道マイスター養成事業

特別講演

山形大学では、平成24年度から一般市民を対象に、奥の細道についてのボランティアガイドを養成する「奥の細道マイスター講座」を山形・宮城県内で開講しています。今回鶴岡市で中級講座を開講するにあたり、講義の一部を特別講演として広く一般に開放します。

『おくのほそ道』に加えて、山形大学地域教育文化学部の前身の山形師範学校を卒業した作家、藤沢周平の作品世界を探访します。

平成28年**11月12日**(土) 13:00~16:30

文学散歩

参加者募集(先着順) 定員: 30名

奥の細道ゆかりの地を散策

- 開催時間 13:00~14:45
- 集合場所 山形大学農学部1号館入口 ※12:30までにお越しください。
(山形県鶴岡市若葉町1-23:旧国道7号線側)
- ナビゲーター 山形大学 教授 山本 陽史

予定コース

農学部発~長山重行邸跡(松尾芭蕉が滞在)~内川乗船の地~内川岸辺散策~致道館(旧藩校)~藤沢周平記念館~農学部到着(15:00を予定)

講演

庄内の風土と文学~江戸から現代まで

- 開催時間 15:00~16:00
- 会場 山形大学農学部 102教室
- 講師 山形大学 教授 山本 陽史

◆ 受付期間: 9月8日(木)~10月31日(月)

◆ 申込方法: 裏面受講申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAX、メールのいずれかでお申込みください。

※事前のお申込みが必要です。

◆ 注意事項: 荒天の場合には、文学散歩のルート変更や、藤沢周平記念館の見学のみとなる場合がありますので、ご了承願います。



受講料 1,000円

(藤沢周平記念館入館料・保険料等を含みます。)

(当日受付にてお支払いください)

お問合せ
お申込み

山形大学エンロールメント・マネジメント外部社会連携課

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL: 023-628-4016

FAX: 023-628-4491

E-mail: embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈申込先〉 山形大学EM部社会連携課
FAX:023-628-4491
E-mail:embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「平成28年度 奥の細道マイスター養成事業」 特別講演 受講申込書

お申し込みの際は、以下に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお申込みください。

申込
締切

平成28年10月31日（月）

特別講演の受付は、先着順となります。

ふりがな お名前 (年齢)		性別
		男・女
ご住所	〒 -	
連絡先電話番号	ご自宅：() - 携帯電話：() -	
電子メール（任意）		@
ファックス（任意）		

※今回記載していただいた個人情報は、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。

※文学散歩は、安全な道・場所を引率者が配慮の上ご案内いたしますが、参加は自己の責任でお願いいたします。

（仮に自己の責任に基づく事故・怪我があった場合、主催者側は責任を負いかねます。）

平成28年9月8日
山形大学

ひらめき☆ときめきサイエンス
『算数・数学マジックを楽しもう！
～「なぜ？」&「なるほど！」の世界2016～』を開催します

県内の小学5年生～中学2年生20名を対象に、教育実践研究科の大澤弘典教授が担当代表として、『ひらめき☆ときめきサイエンス「算数・数学マジックを楽しもう！～「なぜ？」&「なるほど！」の世界2016～』を開催します。

算数・数学を使った「マジック」や「トリック」を楽しみます。まず、「マジックショー」を観て楽しんでください。きっと、「不思議だ!?!」、「なぜだろう!?!」、「どうなっているの!?!」という気分になりますよ。次に、参加したみなさんの力を合わせて、マジックのカラクリや仕組みを見破っていきます。さらに、新たな算数・数学マジックづくりにもチャレンジします。これであなたも一流マジシャンです!

- ◆日時：平成28年10月30日(日) 10:00～15:10
- ◆場所：地域教育文化学部2号館
- ◆対象：山形県内の小学5年生～中学2年生、20名
- ◆受講料：無料
- ◆申込：10月17日(月)必着
(参加申込書に記入の上、faxまたはe-mailでお申し込みください。)

(お問合せ先)
山形大学小白川キャンパス事務部
地域教育文化学部事務室
TEL 023-628-4304

算数・数学マジックを楽しもう!

～「なぜ?」&「なるほど!」の世界 2016～

開催日時: **平成28年10月30日(日)10:00～15:10**

開催会場: 山形大学地域教育文化学部2号館
(〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12)

対象: 山形県内の小学5年生～中学2年生, 20名

担当代表: 大澤弘典 (山形大学大学院教育実践研究科教授)

内容: 算数・数学を使った「マジック」や「トリック」を楽しみます。まず、「マジックショー」を観て楽しんでください。

きっと、「不思議だ!?!」、「なぜだろう!?!」、「どうなっているの!?!」という気分になりますよ。次に、参加したみなさんの力を合わせて、マジックのカラクリや仕組みを見破っていきます。さらに、新たな算数・数学マジックづくりにもチャレンジします。これであなたも一流マジシャンです!

その他: 持ち物は筆記用具です(昼食はこちらで用意します)。小学生が参加する場合は、保護者の同意(会場までの送迎は保護者が責任を持つこと)が事前に必要となります。



**参加費
無料**



本プログラムは独立行政法人日本学術振興会による研究成果の社会還元・普及事業です。

当日のスケジュール

9:30-10:00	受付(山形大学地域教育文化学部2号館入口)
10:00-10:15	開講式(あいさつ, 科研費の説明, スケジュールの説明など)
10:15-11:00	プログラム①: 「数」にかかわるマジック
11:00-11:15	クッキータイム
11:15-12:00	プログラム②: 「形」にかかわるマジック(その1)
12:00-12:45	昼食
12:45-13:30	プログラム③: 「形」にかかわるマジック(その2)
13:30-13:45	クッキータイム
13:45-14:30	プログラム④: 「動き」にかかわるマジック
14:30-15:00	修了式(未来博士号授与, アンケート記入など)
15:10	終了・解散

《お申込み・お問い合わせ先》 山形大学地域教育文化学部総務担当 町田

tel: 023-628-4304 fax: 023-628-4313 e-mail: kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

下記の参加申込書をご記入の上, fax 又は e-mail で送信してください。

申込み締切: 平成28年10月17日(月) 必着

参加申込書	ふりがな 氏名	生年月日	平成 . . 生	性別	<input type="checkbox"/> 男・ <input type="checkbox"/> 女
	住所	〒	電話番号	()	—
	学校名	学校(年)	保護者の同意(小学生必須)	<input type="checkbox"/> 同意有り	
	e-mail アドレス				

該当するものに を記入してください。ご記入いただいた個人情報は本件のみに使用し, 他には一切使用しません。申込み多数の場合は, 抽選にて受講者を決定します(10月下旬に, 応募者全員にメール等でお知らせします)。



主催: 山形大学大学院教育実践研究科 後援: 山形市教育委員会